

平成30年度 早岐中学校の研究構想

1 研究主題

主題 『生き生きと意欲的に学び合う生徒を育成する授業の創造』
副主題 ～協同的な学びの中で、他者との関わりを重視し、より質の高い学びを追究する～

2 主題設定の理由

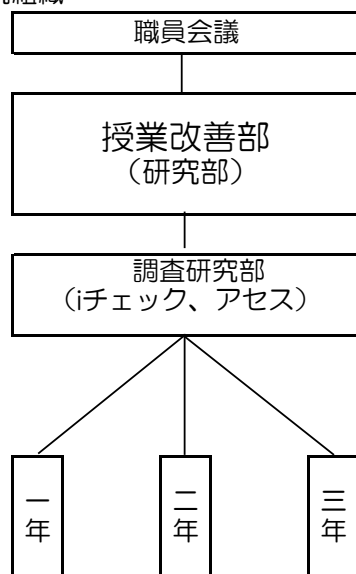
本校では、平成23年度から2年間、「確かな学力の定着をめざした授業の創造」～教科のチーム力を活かした授業力向上～をテーマに授業改善研究を行い、研究発表会を行った。さらに向上させるための次年度からの課題として、言語活動の推進があがった。

平成25年度からは、「グループでの学習（協同的な学び）」を取り入れることで、コミュニケーションの育成及び言語環境の充実に取り組んだ。

基礎学力が低い生徒や理解が困難な生徒、特別な支援を要する生徒が各学級に在籍している。そのような生徒は生徒指導の面でも重要であり、生徒一人一人の学力を保証する上で、授業改善を図っていくことは教師に与えられた使命である。

平成29年度に続き、今年度も協同的な学びを推進し、授業の中で活動する場面、協同する場面、表現を共有する場面等を授業展開に仕組むことで、他者との関わりを重視し、より質の高い学びをめざす。

3 研究組織



授業改善部

どの子にも分かりやすい授業作りを行う。

- (内容) ・協同的な学びの研修を進める。
・「ねらい」と「まとめ」の表示
・ICTを活用した聴覚と視覚による指示・説明の充実

組織の役割

- | | |
|------|-----------------------------|
| 職員会議 | 提案事項の確認機関 |
| 研究部 | 提案や、各学年への伝達・各学年からの情報収集をする機関 |
| 各学年 | 研究推進機関 |

4 具体的取組

(1)協同的な学び（公開授業及び授業研究会の実施）

- ① 全体研修・・・全職員で公開授業学級を参観する。授業者を各学年から1名（年3回、外部講師：稲葉先生他の招聘）
- ② 先進校視察・・・県内外へ同様の取組をしている学校に視察し、全職員で共有する

(2)支援が必要な生徒の把握（アセスの実施）

- ① 全体研修・・・夏休みの研修で全体への共通理解と支援が必要な生徒の共通理解を図る（特活部会と連携）
- ② アセスの実施・・・4月、7月、12月に学活の時間に実施、iチェックの実施（5月）

(3)特別支援教育研修

- ① 全体研修・・・特別支援学校の先生による校内巡視と支援の方法の共有化（特別支援教育コーディネーターとの連携）

5 年間の校内研修実施予定

実施月日		校 内 研 修 計 画	授業者
4月	5日	・研究概要説明と研究計画の説明	
4月	5日	・学びの共同体について（概要説明）	
4月		・アセスの実施（各学級、学活の時間に実施）	
5月		・Ｉチェックの実施（各学級、学活の時間に実施）	
6月	26日	・全体授業研修会（３年生）稲葉先生来校	3年（ ）
7月		・アセスの実施（各学級、学活の時間に実施）	
8月	夏休み	・アセス、Ｉチェックについての研修会	
8月	夏休み	・アクティブラーニングの研修会（事例研究など）	
8月	夏休み	・特別支援教育研修（ＳＣによる講義）・服務規律	
11月		・全体授業研修会（２年生）	2年（ ）
12月		・アセスの実施（各学級、学活の時間に実施）	
12月		・ＩＣＴ活用研修	
2月	21日	・全体授業研修会（１年生）稲葉先生来校	1年（ ）
2月		・本年度の反省，次年度の計画	

★伝達研修会は出張後に逐次設定する（時間がとれない時はメール配信）

6 全体研修会（授業研究会）の視点

授業者

- ・授業レシビ（略案）を作成し、生徒の座席を明記する
- ・授業のどこで「グループ学習」を取り入れるかを示す
- ・ジャンプの課題を設定する

参観者

- ・教師を見るのではなく、子どもを見る
（子どもがどう学んでいたかという事実を研究する）
～子どもの反応や状況に目をやる～

→授業研究会において全員で共有する